

第14作目「レニャーノの戦い」

史実とヴェルディ・オペラの脚色

まず、史実によると1154年10月フリードリヒ1世(バルバロッサ=赤ひげ王1122~1190)はイタリア遠征を行い、翌年6月18日ローマ聖ペトロ教会で、時の教皇ハドリアヌス4世からイタリア王、神聖ローマ帝国皇帝の称号を受け戴冠式を行った。その後イタリアの政治、宗教等深く立ち入るが、政策的に教皇とも意見の食い違いができ敵対する。1159年教皇が死去。後継者選びにまた腐心しなければならず、イタリア遠征が5回に及ぶ。1160年反皇帝派が推すアレクサンデル3世から破門を言い渡され怒り狂う。1162年政策面で敵対するミラノへ侵攻、皇帝バルバロッサが任命したポデスタ(Podesta' 執政官)を置き、バルバロッサの傀儡政治が始まる。

1168年これに反対し、北イタリアの諸都市がロンバルディア同盟を結成する。バルバロッサはこれに危機感を覚え、1174年に再びイタリア遠征をする。ミラノに来て北イタリアの諸都市の同盟がミラノ以外の周辺都市まで同盟に参加をし、ふくれあがったことに驚愕、ハインリヒ獅子公(ザクセン公、バイエルン公)に援軍を求めたが拒否され、1176年5月29日「レニャーノの戦い」で大敗を喫した。結果バルバロッサ=赤ひげ王は、約20年間教会の分裂、ミラノでの政策の失敗でイタリア同盟側に大きく譲歩を余儀なくされた。そしてイタリア同盟側に神聖ローマ帝国皇帝としてのみ承認させ、イタリアから去り、北イタリア・ロンバルディア自治都市が生まれた。

(注)レニャーノはミラノから北西約25kmにあるところ。

ちなみに1189年に教皇グレゴリウス8世召集の下、第3回十字軍遠征にフリードリヒ1世(バルバロッサ)は参加している。この時参加したのはフランス王フィリップ2世、イギリス王リチャード1世で、独、仏、英の王が揃って参加、豪華な十字軍遠征であった。

1849年1月27日ローマ・アルジェンティーナ歌劇場初演

さて、このような外国支配に勝利した北イタリア同盟軍。史実に基づきイタリア・ロマン派ヴェルディとサルヴァトーレ・カンマラーノ台本作家が大いに脚色し、作り上げた愛国オペラ「レニャーノの戦い」は、19世紀イタリア統一運動(リゾルジメント)に一役担った。

ストーリーはレニャーノの戦いをベースに、<ある若者は相思相愛の彼女がいた。彼女は先の戦争で若者が死んだと父親から聞かされ、父親の意思で別の男と結婚していた。しかし若者は九死に一生を得て帰って来ていた。若者は彼女が自分を待っていて呉れているものと信じていた。彼女の夫はレニャーノの戦いに参戦するため北イタリア同盟軍を纏める総司令官であり、若者は勇敢なその戦士になっていた。志を同じくする二人は戦場で・・・> 男女の恋、裏切り、中傷、嫉妬、信義、名誉等が絡んだ抒情的悲劇に作り上げた。

敵対するバルバロッサ(フリードリヒ1世)は非常に短い第2幕で突然舞台に出てきて、北イタリア同盟軍を驚かせる。そして、“イタリアの運命はわしが握っている Il destino d'Italia son io!・・・” を歌うがバルバロッサが敗戦するため、音楽は不協和音で多く